

# 注目スポット

ペンガラの町並みは城下町とは一味違う趣  
吹屋ふるさと村

幕末期から明治にかけて銅山で栄えた吹屋地区は、特産のペンガラ(酸化第二鉄)を塗り込めた町家が並び、国の伝統的建造物群保存地区に指定されている。豪商の邸宅や資料館などの見どころも多い。

◆高梁市成羽町吹屋  
☎0866-29-2222(成羽町観光協会吹屋支部)

# 城下町の老舗



ユズ酸味爽やかに  
伝統の味を守り続ける  
天任堂

地元産のユズやもち米、水飴等で作る高梁の代表的な和菓子、ゆべし。江戸初期の代官、小堀遠州が考案したといわれ、天任堂では6代藩主の板倉勝隆に献上したのを機に作り始めた。柔らかい食感と爽やかな風味が特徴。短冊状の“包みゆべし”は5枚360円〜。

◆高梁市東町1877 ☎0866-22-2538  
◆営業時間/9:00~17:00 ◆休業日/日曜

ふいご峠駐車場から天守へ向かう山道は急勾配続きで、石段の高さもふぞろい。歩きやすい運動靴で登ろう。



# 頼久寺庭園

【らいきゅうじていえん】

創建は南北朝時代。国史跡に指定されている蓬萊式枯山水庭園は代官、小堀遠州が1605年ごろに作庭したもの。白砂を敷いて鶴と亀をかたどった石組みを配し、サツキの刈り込みで波とうを表現している。

◆高梁市頼久寺町18 ☎0866-22-3516  
◆開園時間/9:00~17:00 ◆休園日/無休  
◆入園料/大人400円、中・高生200円



約10分

トイレ休憩は高梁商家資料館へ。江戸末期の町家を活用した無料休憩所だ。



# 五万石

【ごまんどく】

ご当地グルメ「インディアンマト焼きそば」が味わえるお好み焼き店。カレー風味の焼きそばに、地元産のトマトを使うのが基本で、五万石ではそばを卵焼きで覆い、その上にトマトソースをかける。720円。

◆高梁市鍛冶町125 ☎0866-22-3310  
◆営業時間/10:30~20:30  
◆休業日/月曜



約5分

# 紺屋川筋

【こやがわすじ】

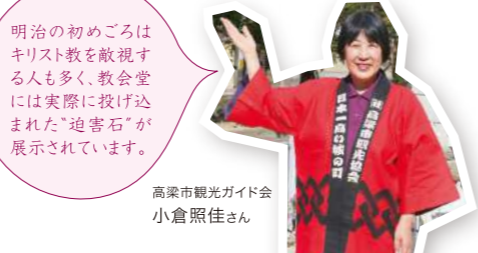
観光客に人気のエリア。川辺を彩る桜と柳の並木通りは「日本の道百選」に選ばれている。新島裏ゆかりの高梁基督教教会堂は日曜の午前以外は自由に見学できる。

◆高梁市鍛冶町 ☎0866-21-0461(高梁市観光協会)



約5分

高梁高校に立つ御根小屋跡の碑。



明治の初めごろはキリスト教を敬視する人も多く、教会堂には実際に投げ込まれた「迫害石」が展示されています。

高梁市観光ガイド会 小倉照佳さん



# 勇壮な山城の麓 歴代藩主らが刻んだ 繁栄の証しに出会う

# 高梁 岡山県高梁市

## 歴史

鎌倉時代の地頭、秋庭重信が1240年に砦を築いたのが始まり。戦国時代は激しい争奪戦が繰り返され、江戸時代も開幕直後の小堀氏から末期の板倉氏まで、城主の入れ替わりは多かった。明治政府から廃城令が出されたが、山頂の城の取り壊しは費用がかかるため、「解体した」と虚偽の申告をして難を逃れた。

## ゆかりの武将

### 水谷勝宗 1623年~89年

初代備中松山藩主、水谷勝隆の長男として生まれる。1664年に跡を継いでからは新田開発に努め、城下町の整備にも尽力。84年、外様大名から譜代大名に加えられた。

## 城FILE ②

### 備中松山城

別名	高梁城
構造	山城
天守	2層2階(国指定重要文化財)
築城者	秋庭重信
築城年	1240年
遺構	天守、櫓、堀、石垣、土塁



岩の上に築かれた石垣と白壁

岡山県高梁市内山下1 ☎0866-21-0461(高梁市観光協会)  
◆入城時間/9:00~17:30(10月~3月は16:30まで)  
◆休城日/12月29日~1月3日  
◆入城料/大人500円、小・中生200円  
◆アクセス/岡山自動車道「賀陽」ICからふいご峠駐車場(8合目)まで約30分。そこから徒歩約20分 ※多客期は城見橋公園(5合目)で登城バスに乗り換えふいご峠駐車場へ(運行日はホームページで確認)

高梁市観光協会 検索

# 高梁市武家屋敷

【たかはししげやきしき】

江戸中期の中級武士の屋敷が集まり、旧折井家と旧垣原家の2軒を見学できる。旧垣原家は藩主、板倉勝政の生母の実家だったことから寺院建築や数寄屋風の要素を取り入れたぜいたくな造りになっている。

◆高梁市石火矢町 ☎0866-21-0461(高梁市観光協会)  
◆開館時間/9:00~17:00 ◆休館日/12月29日~1月3日  
◆入館料/大人500円、小・中生250円(2館共通)



約20分



約10分

標高430メートル。臥牛山の頂上付近に2層2階の天守が立つ。8合目のふいご峠から山道を上ること約15分で大手門跡にたどり着く。切り立つ岩の上に石垣がめぐらされた様は、難攻不落の名城の面影を残す。  
現在の天守は1683年、時の備中松山藩主、水谷勝宗によって修築されたもの。山陽と山陰の中間地に当たる高梁は何度も戦禍に見舞われてきたことから、内部には暖を取るための囲炉裏や藩主一家の居室など籠城への備えが盛り込まれている。  
もともと、泰平の江戸の世に藩主が登城する機会は少なく、居館「御根小屋」で政務を執った。跡地に立つ県立高梁高校の南側には長屋門や土壁が連なる武家屋敷が残り、その先には枯山水の庭園で有名な頼久寺がある。江戸初期に代官の小堀遠州が造ったといわれる庭は初夏には大波を表したサツキの刈り込みが花を咲かせる。  
頼久寺から、かつて城の外堀だった紺屋川筋へ。風情漂う城下の町並みで異彩を放つのが岡山県最古の教会、高梁基督教教会堂だ。幕末期に米国に渡った新島襄が帰国後、かねてから親交のあったこの地でキリスト教の伝道活動を展開。それがきっかけとなって誕生したという。歴代藩主らが残した数々の「遺産」は、山間の城下町の歴史を今に伝えている。



天守に囲炉裏があるのは全国的に珍しい